

第4回世田谷区基本構想審議会 議事要旨

【日 時】 平成24年12月25日(火) 午後6時30分～午後8時15分

【場 所】 世田谷区役所第2庁舎4階 区議会大会議室

【出席者】

委員 枝廣淳子、大杉覚、大橋謙策、小林正美、竹田昌弘、永井多恵子、
松島茂、宮台真司、森岡清志、森田明美、上野章子、宇田川國一、
大森猛、桑島俊彦、永井ふみ、松田洋、宮田春美、宮本恭子、
風間ゆたか、上島よしもり、桜井純子、高橋昭彦、村田義則(以上23名)
区 保坂区長、板垣副区長、秋山副区長、田中基本構想・政策研究担当部長、
岩本地域行政担当部長、望月基本構想・政策研究担当課長、小田桐政策企画
課長

【議事概要】

1 世田谷区基本構想たたき台の検討

基本構想たたき台および竹田委員案につき、資料に基づき説明が行われたのち、内容に関し議論が行われた。各委員の意見をより一層反映した構想とするために、有志の委員は1月11日まで一部分でもよいので、文案を作成し事務局に提出することになった。また、基本構想の主語については多様な意見が出され、起草委員会で検討・決定することになった。

2 その他

区民アンケート、「新たな基本構想に関する区民意見・提案発表会」、区長と区民の意見交換会につき、事務局より、資料に基づいた報告が行われた。

《主な意見》

(1) 世田谷区基本構想について

- ・将来目標8に産業に関する事項が記載されているが、就業に関する項目が多く、産業振興の役割が少ない。産業の持つ公共的役割も踏まえ、加筆が必要である。
- ・たたき台では世田谷区の独自性が感じられない。世田谷区の強みを活かす、世田谷区ならではの視点から加筆する必要がある。
- ・実現の方策として6つ記載があるが、はじめ2つは役割で、残りの4つは手段であり、レベルが異なる。このように、記載内容のレベルがそろっていない箇所があり、修正が必要である。
- ・就業支援が地域で働くことを中心に記述されているが、母親、ニート、若者なども含めた雇用環境全般に関して記載したほうが望ましい。
- ・たたき台は具体性がなく、抽象的な表現が多い。竹田委員案は具体性があるため、表現を上手く、混ぜ合わせるとよいだろう。
- ・実現の方策(4)に区民によるワークショップ、区民会議などの記載があるが、構想で具体的な手法にまで言及するのは不適であり、区民参加の方向性を示すだけにしたほうがよい。

- ・区民と区が共有する公共的方針とし、「公共サービスの担い手として社会的責任を果たします」など区民にも何らかの義務を課すような表現は、基本構想という枠組みでは無理がある。基本構想では方向性を示すだけにしたほうがよいのではないか。
- ・世田谷区は東京オリンピックの頃に都市の骨格が作られており、都市の更新時期を迎えている。ハード面の更新について都市デザインの観点も含め記載が必要である。
- ・将来目標 の文章が男女の固定的役割意識を助長するような表現を含んでおり、また、男女という表現もセクシャルマイノリティを考えると見直す必要がある。多様性を認識し慎重に検討を行った上で、20年後を見据え、思い切った文章としたほうがよい。
- ・将来目標 はハード整備が強調されているが、災害弱者を生み出さないという視点から、日頃から誰もが排除されない地域づくりを進める必要性についても指摘が必要である。
- ・計画の進行管理において、札幌市の笑顔指標のような、世田谷区独自の区民が興味を持てるような仕組みが必要である。
- ・前文が区内に閉じた内向きな印象を受ける。外向きに世界に向け発信していくような記述があってもよいのではないか。
- ・実現の方策（１）において、区民・事業者の役割が記載されているが、区民・事業者が役割を果たせる環境を区がどのように整えていくかという視点も必要である。
- ・本基本構想の特徴は「地域の自律」「区民が主体の参加型民主主義」であり、これらを前面に出すことで世田谷ならではの基本構想になるのではないか。
- ・将来目標の内容に、既に実施されている事項が多く含まれており、将来目標という言葉にそぐわない。将来を見据え、もっと広がりを持って記載したほうがよい。
- ・主語により内容の変わる項目も多い。文章毎に主語を書き分ける場合には留意が必要である。
- ・規則に近いものに記載内容がなっているため、もっと区民が共有する価値観や、方向性を重視した書きぶりのほうが望ましい。
- ・基本構想は憲法のように本文から読み取れる起草者の心構えや考え方から、新たな権利が発生する性質があると考えられる。具体性をもった記述を行うことで、後世の人に起草者の意図が伝わりやすくなり、悪くはない。
- ・区制 80 周年記念の作文の文章を活用するなどし、前文はもう少し、柔らかく、分かりやすく書いたほうがよいのではないか。
- ・20年後を担うのは今の子ども達であるため、基本構想は子ども用の冊子もあるとよい。

（２）その他

- ・各委員から個別に出た意見が事務局内に留まっている。委員と共同作業により文案を策定することが時間的に難しい場合であっても、各委員から出た意見は事務局を通さずに共有できるようにするべきである。